

# デート行動と誤解の心理

中 里 浩 明  
滝 野 匡 悦

## Summary

### Misperceived Dating Behavior

Hiroaki Nakazato  
Masayoshi Takino

The present study aimed to test the following hypotheses: (1) Males might misperceive females' friendliness as a sign of romantic or sexual interest. (2) Some sex differences might appear in understanding females' various dating behaviors. Thirty-five male and 57 female subjects participated in this investigation. First, they were asked to rate the woman target depicted in different scenarios on 20 bipolar adjectives. The results indicate that there were the date initiation, intelligence and sex differences in subjects' ratings of the targets. The woman who asked for a date, compared to the woman who did not, was rated as more sexually active, more extraverted, especially in male subjects. The intelligent and assertive woman, compared with the unintelligent and unassertive woman, was rated as more ambitious, more competent, more far-sighted, more feministic, and less agreeable. Second, the same subjects were presented 13 short scenarios described dates in which who initiated, who paid, and the dating behavior were varied. They rated these on romantic love, kiss expectation, sex willingness, rape justifiability scales. Results showed that all scale-ratings were highest when the woman initiated the date, when they went to the man's apartment, and when the man paid the dating expenses. Females' romantic love and kiss expectation ratings were consistently higher than males', in contrast to the males' higher ratings on sex willingness and rape justifiability ratings. This may suggest that males are somewhat more likely to perceive the world in a sexual fashion than females are, which some males regard as justifying rape. Furthermore, males seem to consider females' friendliness as a hint of sexual intent. These findings were similar to Muehlenhard's (1988). Finally, the sex role attitudes had no significant effect on subjects' ratings. Some implications of these results are discussed.

この世に、男と女がいるからこそ、人生に綾ができ、彩りが生じる。

近年、わが国において、異性関係が急激に変化しつつあることは、都会の回廊や小径を少し散策してみるだけで、一目瞭然である。若い男女は、もつれあうようにして戯れているし、そうした行動を、むしろ誇らしげに、目立たせているかのようだ。こうした外面が、内面の態度と対応していることは、いちいち、確かめるまでもないであろう。しかも、この種の態度変化の生起という事実に関しては、老若男女を問わないものであることが、文献にも指摘されている（例えば、石川・斉藤・我妻、1984；田中、1988）。

**女性からの異性関係の開始** こういった、性風俗や態度の激変という社会情勢のなかでは、女性からのデートの誘いも、少なくないことであろう。とは言うものの、女性が、交際を最初に切り出すことには、まだまだ差障りがあるかも知れない。

アメリカ文化圏では、どうであろうか。

Muehlenhard & McFall (1981) によれば、女性が男性に誘いをかけた場合、彼女が好かれているならば、問題なく、受容されるであろう。だから、「彼女が、ある男性とデートしたいと思い、かつ、拒否されてもかまわない、というのであれば、イニシアティブを取ることによって失うものは、事実上、なにもないのである」(p. 691)。それはそうではあるが、男性に拒否されることに伴う心の痛手は、やはり、相当なものであるはずだ。それが嫌さに、接近をはばかる向きも出てくるのではないか。

確かに、男性も、女性からのデートの働きかけに、肯定的な態度・期待を抱いている。しかし、年長者は、必ずしも、そうとは言いきれないであろうし、また、特に、女性からの、受諾を求めての執拗な誘いかけが、成功を収めることは、極めて疑わしいのである (Kelley & Rolker-Dolinsky, 1987)。ただし、この最後の指摘は、女性だけに、限定されるものでもない。

さらに、性定型化された (sex-typed)、伝統的な性役割態度を持つ人物の反応は、これまた特異であろう。Kelley & Rolker-Dolinsky (1987) は、その報告のなかで、性定型化された人物と、両性具有的な (androgynous) 特徴を有する人物の、関係の捉え方の違いを比較している。異性関係を女性から始められると、性定型化された男性の場合、①関係の維持期間はすごく短いし、②相手に愛情をまるで抱かないし、③真面目なものでも全くない、というのである。

そういうものかも知れない。なにしろ、性定型化された、伝統的な性役割態度を強く持つ男性にとって、女性からの、異性関係の開始は、自身の見解に全然合致しないし、それは、自己主張の鋭い (self-assertive)、知性の勝っている女性に対して抱かれる感情と、どこか類似したものがあるのではないか。検討の余地がある。

**デート行動と性的攻撃性** 社会情勢や性的態度の変化に伴い、性犯罪も急増し、低年齢化し、質的变化を遂げていることが、新聞等々を賑わしている。性犯罪には種々のものがあげられるが、ここで問題にするのは、女性が被害者となる犯罪、レイプ（強姦、婦女暴行）である。事

柄の性質上、表面化しにくい側面を持つ、この性暴力犯罪は、しかし、実質、かなりの数に上っていることは、想像に難くない。

落合(1985)の、レイプ告訴をめぐる法廷小説が評判を呼び、映画化もされたのは、つい先頃のことである。今は、『告発の行方』という、同じ主題の洋画が喧伝されている。ところが、この手のトピックは、不思議なことに、わが国の心理学の誌上には、余り見当たらないようだ。目を転じよう。

Abbey(1982)によれば、男性は、女性の意図をしばしば誤解する。女性から示される友好的な(friendly)行動を、好意の溢れたもの、性的関心のサイン、誘惑として受け止めてしまう。一般に、男性は、女性と比較して、外界を、より性的な観点から知覚し、性的な色彩で、判断を下しがちであるという。この辺りの事柄は、かなり、通文化的なのではあるまいか。

話は、そこから、さらに進行する。

Burt(1980)は、人々のなかには、「レイプ神話」、即ち、被害者に責任を帰する見方、を是認・支持する者も多い、と指摘する。例えば、女性が、ヒッチハイクをする、ノーブラで出かける、ペッチングをする、酔っぱらう、パーティーで出会ったばかりの人物と性交渉する、などの場合には、レイプは、より正当化される。この種の行動は、「暗示的」(suggestive)であるばかりか、伝統的な女らしさのステレオタイプと合致しないからである。

同様に、Check & Malamuth(1983)によれば、伝統的な性役割態度を持つ人物は、レイプを、特にデート中に生じるレイプを、より許容しがちである。女性の側に罪があると見なし、「レイプ神話」を信奉するのである。

わが国では、「レイプ神話」なるものが、果して、どれほど浸透しているのであろうか。被害者にも責任があるという程度で、やはり、加害者が圧倒的に非難されるという土壌なのか、否か。検討に値する問題である。

さて、この種の論点を踏まえて、Muehlenhard(1988; Muehlenhard, Friedman & Thomas, 1985; Muehlenhard & Linton, 1987)は、デート行動と性的攻撃の関係を、明細かつ組織的に取り扱っている。いかなる状況で、レイプの加害者の行動が正当化扱いを受けるか、逆に言えば、被害者にも責任ありと見なされる状況は、どのような場合か、ということを明らかにしようとした。例えば、土曜の夜に、女性が誘って、男性のアパートに話をしに行くのは、同じく、キャンパスでの映画を観に行くとか、宗教行事に出席するのよりも、遥かに誘惑的だと見なされる。この見方は、伝統的な性役割態度の持ち主では、一層強力であろう。こういう内容である。

そこで、以上の諸点、つまり、女性からのデート申し込みの効果、及び、デート行動と性的攻撃性の関係を、わが国の標本を用いて、比較文化心理学的に扱うことは、それなりに有意義であろうと思われたので、この調査研究を実施した。

## 研究Ⅰ：女性のデート申し込み効果

### 目 的

自ら異性関係を開始する、デートの申し込みや誘いをかける女性は、どのような特徴の持ち主だと受け止められているか。また、自己主張をする、知的な女性についてはどうか。この種の認知に、性差はあるか。性役割態度の違いで、反応に差異が見られるか。以上の諸点を検討するのが、ここでの目的である。

仮説を具体的に述べる。

①Muehlenhard & Scardino (1985) によれば、デートを申し込む女性は、性的に活発で、行きずりのデートをし、順応性があり、感じがよい、と男性に認知されている。アメリカの文化ではなく、日本の文化においては、これらの特徴が、そのまま当てはまるとは思われない。また、男女による差異もあるであろう。

②知的な女性は、好感が持て、性的に活発ではなく、信頼でき、好奇心に満ち、順応性があり、機転がきき、行きずりのデートはしない、と男性に認知されている。しかし、場合によっては、敬遠されることもあるのではないか。

③デートを申し込む・知的な女性は、最も好感が持たれ、男女同権的だ、と男性に認知されている。だが、常に、最も好感が持たれるか。時には、反発を食らうこともあるのではないか。

④伝統的な性役割観を持つ人物は、男性をデートに誘う女性に対して、ステレオタイプに合致しない訳だから、違和感を深くするであろう。この点は、特に、男性に該当するであろう。

### 方 法

**被験者** 昭和63年12月、西宮市内の某大学において、匿名、集団で、リサーチを実施した。不完全なものや、いいかげんな回答を除き、分析のために残したデータは、男子35、女子57であった。平均年齢は、約20歳 ( $M=20.34$ ,  $SD=.84$ )。以下で述べる4条件(シナリオ)に、ランダムに割り振った。

**実験計画** Muehlenhard & Scardino (1985) の実験デザインに準拠している。級間要因は、①デート申し込み：女性から誘う／誘わない、②知能・成績と自己主張：高い／低い、③性役割態度：伝統的／非伝統的、④被験者の性別：男性／女性、であった。

**質問紙** Muehlenhard & Scardino (1985) の研究では、デート申し込みや知能・成績の変異などを、演技者に細かく指示し、収録した、ビデオテープを用意していた。筆者らは、簡潔な「シナリオ」を作成し、これに代えることにした(付録1参照)。

シナリオは、後期試験を間近にした、二人の男女大学生の会話という形式をとったものである。要点は、女性の前期試験成績：95点／65点、デート(映画鑑賞)の申し込み：女性から誘う／女性から誘わない(記載せず)、の2つにあった。従って、シナリオは、abcdの4種類である。

そうして、登場する女子大生に対する反応を、「印象判断質問紙」に、7段階で、記入しても

らうことにした。評定のための双極形容詞は、例えば、能力のある／能力のない、信頼できる／信頼できない、異性に興味のある／異性に興味のない、思いやりのある／思いやりのない、情緒の安定した／情緒の安定していない、等々20項目であった（付録2参照）。以上の、シナリオと印象判断質問紙とで、『調査票Ⅰ』を構成した。

『調査票Ⅱ』として、性役割態度を測定した。これには、Spence & Helmreich (1978) の邦訳（東・小倉, 1984）を、若干修正して使用した（付録3参照）。

## 結果と考察

最初に、4種類のシナリオに対する、被験者の印象判断の得点を合算し、因子分析に掛け、ヴァリマックス回転を施した（日本マイコン販売, 1986）。因子は、固有値1以上を有意と見なした。すると、「性的活動性」(sexual activity), 「好感性」(likability), 「知性」(intellectuality), 「信頼性」(trustworthiness), 「柔軟性」(flexibility), 「攻撃性」(irritability) の6因子に、結果が纏められた（表1）。そこで、以下の分析では、これら集約された次元と、所属項目という形で、検討を進める。

表2には、印象判断に及ぼす刺激女性の知能や成績・自己主張とデート申し込みの効果、その評定平均値を、因子次元や項目ごとに掲げてある。表3は、このデータに基づく分散分析の結果である。有意差の全く見受けられなかった性役割態度は省いて、残りの3要因、デートの申し込み、知能成績と自己主張、被験者の性別を、完全要因実験計画法で分析したのである〔註1〕。分析には、統計パッケージ、行動科学のBASIC (2) : 実験計画法（篠原, 1984）を利用した。

表1：印象判断の因子分析

| 因子                       | 負荷量  | 因子                    | 負荷量  |
|--------------------------|------|-----------------------|------|
| 1. <u>性的活動性</u> (22.71%) |      | 3. <u>知性</u> (12.87%) |      |
| 性的に積極的な                  | .81  | 能力のある                 | -.77 |
| 異性に興味のある                 | .65  | 知的好奇心のある              | -.77 |
| 野心的な                     | .64  | 男女同権的な                | -.61 |
| 外向的な                     | .63  | 視野の広い                 | -.56 |
| 2. <u>好感性</u> (15.85%)   |      | 4. <u>信頼性</u> (6.45%) |      |
| 協調的な                     | -.74 | 責任感のある                | -.62 |
| 可愛げのある                   | -.69 | 信頼できる                 | -.58 |
| 友達づきあいのよい                | -.65 | 敬虔な                   | -.56 |
| 交際してみたい                  | -.59 |                       |      |
| 順応性のある                   | -.58 | 5. <u>柔軟性</u> (5.84%) |      |
| 思いやりのある                  | -.52 | 機転のきく                 | .46  |
|                          |      | 情緒の安定した               | .44  |
|                          |      | 6. <u>攻撃性</u> (5.25%) |      |
|                          |      | 人をいらいらさせない            | -.37 |

表2：印象判断に及ぼす女性の知能成績・自己主張とデート申し込みの効果

| 刺激人物：      | 成績良・主張的 |      |        |      | 成績不良・非主張的 |      |        |      |
|------------|---------|------|--------|------|-----------|------|--------|------|
|            | 申し込む    |      | 申し込まない |      | 申し込む      |      | 申し込まない |      |
|            | 男性      | 女性   | 男性     | 女性   | 男性        | 女性   | 男性     | 女性   |
| 被験者：       | 男性      | 女性   | 男性     | 女性   | 男性        | 女性   | 男性     | 女性   |
| 1. 性的活動性   | 5.91    | 5.56 | 5.09   | 5.50 | 5.20      | 4.67 | 5.09   | 4.22 |
| 性的に積極的な    | 5.63    | 5.08 | 4.82   | 3.92 | 5.00      | 5.14 | 5.00   | 4.06 |
| 異性に興味のある   | 6.63    | 5.69 | 5.18   | 4.08 | 5.25      | 5.79 | 5.50   | 4.82 |
| 野心的な       | 5.75    | 5.23 | 5.00   | 4.85 | 4.25      | 4.86 | 4.00   | 3.59 |
| 外向的な       | 6.63    | 6.23 | 5.82   | 5.85 | 5.88      | 6.21 | 5.88   | 4.47 |
| 2. 好感性     | 4.50    | 4.33 | 5.00   | 4.45 | 4.32      | 3.73 | 4.56   | 4.30 |
| 協調的な       | 4.25    | 3.77 | 3.91   | 3.46 | 5.38      | 4.43 | 4.50   | 4.41 |
| 可愛げのある     | 3.50    | 3.77 | 3.55   | 2.77 | 4.50      | 4.43 | 4.88   | 4.23 |
| 友達づきあいのよい  | 5.75    | 5.54 | 5.27   | 4.54 | 5.75      | 5.36 | 5.38   | 4.88 |
| 交際してみたい    | 4.38    | 3.85 | 4.91   | 3.85 | 5.00      | 3.21 | 4.38   | 3.76 |
| 順応性のある     | 5.25    | 5.00 | 4.45   | 4.31 | 5.13      | 5.07 | 4.75   | 4.41 |
| 思いやりのある    | 3.88    | 4.00 | 3.82   | 3.46 | 4.25      | 4.21 | 3.50   | 4.12 |
| 3. 知性      | 5.75    | 5.69 | 5.00   | 4.46 | 5.07      | 5.54 | 4.25   | 4.60 |
| 能力のある      | 5.50    | 5.62 | 5.45   | 5.85 | 4.38      | 4.36 | 4.38   | 4.35 |
| 知的好奇心のある   | 6.13    | 6.15 | 5.27   | 5.92 | 5.50      | 4.36 | 4.63   | 5.06 |
| 男女同権的な     | 6.00    | 5.69 | 4.73   | 5.69 | 5.00      | 5.00 | 4.25   | 5.06 |
| 視野の広い      | 5.00    | 5.31 | 4.91   | 4.31 | 5.13      | 4.14 | 3.75   | 3.94 |
| 4. 信頼性     | 4.46    | 4.33 | 3.92   | 3.95 | 4.27      | 4.36 | 4.17   | 4.29 |
| 責任感のある     | 5.00    | 5.08 | 4.18   | 4.92 | 4.12      | 4.00 | 4.38   | 4.35 |
| 信頼できる      | 4.75    | 4.46 | 4.73   | 4.54 | 4.25      | 4.21 | 4.38   | 4.59 |
| 敬虔な        | 3.63    | 3.46 | 3.91   | 3.62 | 3.38      | 3.64 | 3.75   | 3.94 |
| 5. 柔軟性     | 4.50    | 4.73 | 4.25   | 4.86 | 4.73      | 4.15 | 4.56   | 4.09 |
| 機転のきく      | 4.50    | 5.00 | 4.82   | 3.77 | 4.50      | 5.00 | 4.13   | 3.71 |
| 情緒の安定した    | 4.50    | 4.46 | 4.64   | 4.54 | 4.00      | 4.71 | 5.00   | 4.47 |
| 6. 攻撃性     | 4.00    | 4.92 | 4.88   | 4.21 | 3.91      | 4.08 | 5.00   | 3.71 |
| 人をいらいらさせない | 4.00    | 4.92 | 4.88   | 4.21 | 3.91      | 4.08 | 5.00   | 3.71 |

註：得点範囲は7－1。

本筋を追っていこう。第1因子の「性的活動性」では、女性からのデート申し込み効果が断然効いており [ $F(1, 84)=18.43, p<.001$ ], 男性をデートに誘う女性が、誘わない女性よりも、性的に活発だと見られている [ $M=5.52$  vs  $4.80$ ]。しかも、この見方は、男性の被験者に一層該当している [ $M=5.32$  vs  $4.99, F(1, 84)=3.99, p<.05$ ]。

同様の傾向は、この因子に所属する項目にも、等しく認められる。特に、女性が男性をデートに誘うと、「異性に興味のある」と推断されることは間違いなく [ $M=5.84$  vs  $4.90, F=22.35, p<.001$ ], しかも、男性の眼には、一層そう映っている [ $M=5.64$  vs  $5.10, F=7.43, p<.01$ ]。さらに、「性的に積極的な」女性だとまでも、推考されている [ $M=5.21$  vs  $4.45, F$

表3：印象判断効果の分散分析

|            | 女性のデート<br>申し込み<br>A | 知能や成績<br>・自己主張<br>B | 被験者の<br>性別<br>C | AB     | AC     | BC      | ABC    |
|------------|---------------------|---------------------|-----------------|--------|--------|---------|--------|
| 1. 性的活動性   | 18.43***            | 4.61*               | 3.99*           | —      | 4.74*  | —       | —      |
| 性的に積極的な    | 10.95**             | —                   | 5.96*           | —      | —      | —       | —      |
| 異性に興味のある   | 22.35***            | —                   | 7.43**          | 8.57** | —      | 5.65*   | —      |
| 野心的な       | 5.75*               | 13.98***            | —               | —      | —      | —       | —      |
| 外向的な       | 14.40***            | 7.33**              | —               | —      | —      | —       | 7.90** |
| 2. 好感性     | —                   | 3.96*               | 4.77*           | —      | —      | —       | —      |
| 協調的な       | —                   | 11.10**             | 3.88*           | —      | —      | —       | —      |
| 可愛げのある     | —                   | 15.70***            | —               | —      | —      | —       | —      |
| 友達づきあいのよい  | 5.66*               | —                   | —               | —      | —      | —       | —      |
| 交際してみたい    | —                   | —                   | 8.91**          | —      | —      | —       | —      |
| 順応性のある     | 6.10*               | —                   | —               | —      | —      | —       | —      |
| 思いやりのある    | 4.49*               | —                   | —               | —      | —      | —       | —      |
| 3. 知性      | 5.64*               | 38.04***            | —               | —      | 5.48*  | —       | —      |
| 能力のある      | —                   | 32.67***            | —               | —      | —      | —       | —      |
| 知的好奇心のある   | —                   | 23.79***            | —               | —      | 7.49** | —       | —      |
| 男女同権的な     | 4.47*               | 9.12**              | —               | —      | 5.03*  | —       | —      |
| 視野の広い      | 10.74**             | 9.95**              | —               | —      | —      | —       | 6.58*  |
| 4. 信頼性     | —                   | —                   | —               | —      | —      | —       | —      |
| 責任感のある     | —                   | 6.27*               | —               | —      | —      | —       | —      |
| 信頼できる      | —                   | —                   | —               | —      | —      | —       | —      |
| 敬虔な        | —                   | —                   | —               | —      | —      | —       | —      |
| 5. 柔軟性     | —                   | —                   | —               | —      | 5.52*  | —       | —      |
| 機転のきく      | 5.69*               | —                   | —               | —      | 5.26*  | —       | —      |
| 情緒の安定した    | —                   | —                   | —               | —      | —      | —       | —      |
| 6. 攻撃性     | —                   | —                   | —               | —      | —      | 10.78** | —      |
| 人をいらいらさせない | —                   | —                   | —               | —      | —      | 10.78** | —      |

註：\*\*\*は  $p < .001$ , \*\*は  $p < .01$ , \*は  $p < .05$ 。

= 10.95,  $p < .01$ ]。この見方も、男性に特徴的である [ $M = 5.11$  vs 4.55,  $F = 5.96$ ,  $p < .05$ ]。

「外向的な」の評定にも、同様の傾向があり、女性が男性を自分からデートに誘ったりすると、外向的な人物だと認知されている [ $M = 6.24$  vs 5.51,  $F = 14.40$ ,  $p < .001$ ]。また、知的で成績が良く・自己主張をする女性のほうが [ $M = 6.13$  vs 5.61,  $F = 7.33$ ,  $p < .01$ ]、当然、外向型の人物だと目されている。

「野心的な」の特徴は、能力と主張のある女性が、特に相当すると判断されている [ $M = 5.21$  vs 4.18,  $F = 13.98$ ,  $p < .001$ ]。もちろん、女性がデートの誘いを掛けた場合も、野心があると見られてはいる [ $5.02$  vs 4.36,  $F = 5.75$ ,  $p < .05$ ]。

第2因子の「好感性」では、目立った効果は現れていない。ただ、成績の芳しくない、自己



主張の弱い女性のほうが、むしろ好感が持たれているようだ [ $M = 4.22$  vs  $4.58$ ,  $F = 3.96$ ,  $p < .05$ ]。この点は、下位項目に移ると、特徴が、ややはっきりしている。「可愛げのある」や「協調的な」女性というのは、知的でなく、主張的でもない人物に対応すると明瞭に判断されている [ $M = 3.40$  vs  $4.51$ ,  $F = 15.70$ ,  $p < .001$ ;  $M = 3.85$  vs  $4.68$ ,  $F = 11.30$ ,  $p < .01$ ]。

「順応性があり」、「思いやりのある」のは、どちらかと言えば、デートを、自分から切り出す女性であるようだ [ $M = 5.11$  vs  $4.48$ ,  $F = 6.10$ ,  $p < .05$ ;  $M = 4.09$  vs  $3.73$ ,  $F = 4.49$ ,  $p < .05$ ]。

いずれのシナリオの女性にも、「交際してみたい」と積極的なのが、男性被験者であるのは、もっともなところである [ $M = 4.67$  vs  $3.67$ ,  $F = 8.91$ ,  $p < .01$ ]。

第3因子の「知性」では、やはり、知能や成績が高く、自己を主張する女性のほうが、該当すると解されている [ $M = 5.51$  vs  $4.58$ ,  $F = 38.04$ ,  $p < .001$ ]。下位項目では、「能力のある」、「知的好奇心のある」が、その線に沿っており、特に、前者において、明確である [ $M = 5.61$  vs  $4.37$ ,  $F = 32.67$ ,  $p < .001$ ;  $M = 5.87$  vs  $4.89$ ,  $F = 23.79$ ,  $p < .001$ ]。

「男女同権的な」や「視野の広い」でも、同様の傾向は認められるが [ $M = 5.53$  vs  $4.83$ ,  $F = 9.12$ ,  $p < .01$ ;  $M = 4.88$  vs  $4.24$ ,  $F = 9.95$ ,  $p < .01$ ]、これらには、女性のデート申し込みの効果も関係している [ $M = 5.42$  vs  $4.93$ ,  $F = 4.47$ ,  $p < .05$ ;  $M = 4.90$  vs  $4.23$ ,  $F = 10.74$ ,  $p < .01$ ]。いずれも、女性のイニシエーターが、男女同権的であり、視野が広いと認知されている。

第4因子の「信頼性」には、有意差が見出されず、下位項目でも、「責任感のある」で、成績や主張の効果がやや出ているに過ぎない [ $M = 4.80$  vs  $4.21$ ,  $F = 6.27$ ,  $p < .05$ ]。「信頼できる」とか「敬虔な」とかは、刺激材料のシナリオ記述からは、読み取れないものと推察される。

第5因子の「柔軟性」にも、同じことが言える。ただ、下位項目の「機転のきく」には、女性のデート申し込み効果が、やや効いているようではある [ $M = 4.75$  vs  $4.11$ ,  $F = 5.69$ ,  $p < .05$ ]。「情緒の安定した」には、有意差は見られない。

第6因子の「攻撃性」、即ち、「人をいらいらさせる(ない)」では、知能・成績と自己主張の効果に、性差が絡まっているようだ [ $F = 10.78$ ,  $p < .01$ ]。男子被験者は、成績が良く、自己主張の強い女性を敬遠気味であり [ $M = 3.96$  vs  $4.94$ ]、逆に、女性被験者は、成績が良くなく、自己主張の弱い女性を芳しくない [ $M = 4.50$  vs  $3.96$ ]、と見なしているかのようである。

ここで、別言すれば、女性のデート申し込み効果に関連して析出された、主要3因子は、順次、活動(A)、評価(E)、力量(P)という、意味の3次元に対応している、と推論できよう(Osgood, Suci & Tannenbaum, 1957)。

Aの「性的活動性」の活発さに関しては、仮説では、男性にデートを申し込む女性に該当すると想定していた。われわれの場合、この仮説を充分裏づける結果が見出された。男女被験者ともに、そのように認知していたが、特に、男性には、一層そう信じ込まれていた。また、知的な女性は、性的に活発だとは認知されないと仮定していたが、結果は、これを否定してはいない。

Eの「好感性」に富むのは、自ら、男性にデートを申し込む女性ではなさそうであった。ま

た、知的で成績良く、自己主張の鋭い女性が、好感を持たれているとは限らない様子も窺い知れた。この点は、Muehlenhard & Scardino (1985) の発見結果とは、方向を異にしている。

P の「知性」に秀でているのは、問題なく、知能・成績が高く、主張するものを持っている女性なのであった。

それでは、女性の側の行動が、周りの人々、とりわけ、男性に意図通りに伝わるか、それとも誤解されるものなのかを、別の角度から、引続き、検討していくことにしよう。

## 研究Ⅱ：デート行動と性的被害のリスク

### 目 的

女性の友好的な行動は、男性から、どの程度誤解を受けやすいか。どんなデート行動が、誘惑だと勘違いされやすいか。交際をだれが開始したり、デート代の支払いをどうするかが、どんな関係を持っているか。性役割態度による差異は見られるか。以上の諸点を検討するのが、ここでの目的である。

仮説を具体的に述べる。

①男性は、女性の意図をしばしば誤解する。女性から示される友好的な行動を、好意の積極的な現れ、性的関心の示唆、誘惑として受け止めてしまう。

②レイプの加害者の行動が正当化扱いを受ける、逆に言えば、被害者にも責任ありと見なされる状況は、比較的判然と認知されている。例えば、女性が誘って、男性のアパートに話をしに行く場合に、最も評価が高く、男性が誘って、仏像拝観に行く場合に、最も低いことであろう。

③デート代を男性が全額支払う場合のほうが、割りかんにするよりも、女性は、その男性に気があると見なされるであろう。

④こういった事情は、伝統的な性役割態度の持ち主では、より強力に作用するであろう。

### 方 法

実験計画 Muehlenhard(1988; Muehlenhard, Friedman & Thomas, 1985; Muehlenhard & Linton, 1987) の実験デザインに準拠している。級間要因は、①性役割態度：伝統的／非伝統的、②被験者の性別：男性／女性であり、級内要因は、①デートの申し込み：男性から誘う／女性がヒントを出す／女性から誘う、②デート行動：仏像拝観／映画鑑賞／アパート訪問、であった。

被験者 男子35名、女子57名(同上)。なお、便宜上、研究ⅠとⅡに分割して記述しているが、リサーチ自体は1回切りである。ただし、一呼吸、間に置いた。

質問紙 『調査票Ⅲ』と表題し、ここでも、簡潔なシナリオを用意した。シナリオは、祐樹と桃子という名前の、二人の架空の人物が、知り合いであることを示す一文から始まる。即ち、「祐樹と桃子は、心理学の授業を一緒に取っていて、時おり話を交わす間柄です。」(付録4 参照)。

この導入文の後に、13個の簡単な状況文が続く。例えば、「授業が終わってから、祐樹は、週末のデートに桃子を誘い、二人は、仏像拝観に出かけました。」、というものである。

デートの申し込み様態（誘い手）としては、男性・女性が主導するのに加えて、女性がヒントを与える場合を設定した。例えば、「授業が終わってから、桃子が、週末の予定がないと彼に語ったので、祐樹は、彼女をデートに誘い、二人は、映画に出かけました。」、といったものである。

また、デート行動としては、仏像を拝観する・映画を観る・話をするために男性のアパートに行く、を用意した。その順番に、女性の行動は誤解を深くし、レイプの危害にあったとしても、正当化されてしまいやすいものと推察される。

以上の、デートの申し込み様態(3)×デート行動(3)=9個の状況文とは別に、デート代を、男性が全額負担するか、それとも、割りかんにするか、を述べた文を2つ設けた。即ち、「祐樹と桃子は、ロックコンサートに一緒に出かけました。チケット代は、祐樹が二人分支払いしました(割りかんにしました)。」、というものであった。

さらに、女性の友好的な行動が、男性からは、特に彼女に好意を寄せている男性からは、気がありそうだとか、誘惑しているのでは、と誤解される可能性があるかを探るための文を、2つ用意してあった。即ち、「祐樹の所属するクラブ主催のパーティー券を売ってあげた桃子は、代金を持って、彼のクラブ部室に出かけました。」「試験が近づいたので、桃子は、ノートを貸してあげるために、祐樹のクラブ部室に出かけました。」、というものであった。

これらの情報を、順次、ランダムに、被験者に示し、そこから受けた判断を、7段階に評価してもらった。使用尺度は、①「桃子は、祐樹に、どのくらい熱をあげていますか。」(熱愛 passionate love)、②「桃子は、祐樹と、どのくらいキスをしたいですか。」(キス期待 expectation)、③「桃子は、祐樹と、どのくらい性交したいですか。(セックス意思 willingness)、④「祐樹は、桃子の意思に反して性交しました。彼の行為は、どのくらい正当化されますか。」(レイプ正当性 justifiability)、の4つであった。

## 結果と考察

**デートの申し込み様態と行動の効果** 今回も、性役割態度に有意差が全く見られなかったで、これを除き、被験者間1要因、被験者内2要因のときの3要因混合計画法(篠原, 1986)を実施した[註2]。具体的には、級間要因は被験者の性別であり、級内要因はデートの申し込み様態とデート行動である。

表4に、様々なデート行動に携わる女性に対して、被験者が下した評価の平均値を掲げる。各指標別に行った分散分析、その全ての主効果に、有意差が認められた。交互作用は見出されなかった。

a. まず、デートの申し込み様態の効果を見てみよう。

「熱愛」の指標では、女性からデートを開始する、女性がヒントを差し出す、男性からの誘いがあるまで待つ、の順に、得点が高かった [ $M = 5.88$  vs  $5.25, 4.64, F(2, 180) = 404.99, p <$

表4：デートの申し込み様態と行動の効果

| 指 標：   | 熱愛     |      | キス期待 |      | セックス意思 |      | レイプ正当性 |      |
|--------|--------|------|------|------|--------|------|--------|------|
|        | 被験者： 男 | 女    | 男    | 女    | 男      | 女    | 男      | 女    |
| 男性から誘う |        |      |      |      |        |      |        |      |
| 仏像拝観   | 4.11   | 4.19 | 3.20 | 3.30 | 2.69   | 2.44 | 2.51   | 1.70 |
| 映画鑑賞   | 4.05   | 4.46 | 3.46 | 3.79 | 2.80   | 2.84 | 2.46   | 1.93 |
| 男のアパート | 5.37   | 5.49 | 4.91 | 5.25 | 4.37   | 4.23 | 3.86   | 3.16 |
| 女性がヒント |        |      |      |      |        |      |        |      |
| 仏像拝観   | 4.74   | 5.07 | 3.94 | 4.30 | 3.14   | 3.25 | 2.86   | 2.14 |
| 映画鑑賞   | 4.91   | 5.04 | 4.34 | 4.32 | 3.86   | 3.32 | 3.37   | 2.30 |
| 男のアパート | 5.77   | 5.86 | 5.06 | 5.25 | 4.26   | 4.33 | 3.91   | 3.21 |
| 女性から誘う |        |      |      |      |        |      |        |      |
| 仏像拝観   | 5.26   | 5.68 | 4.51 | 4.91 | 3.77   | 3.84 | 3.26   | 2.56 |
| 映画鑑賞   | 5.66   | 5.86 | 4.80 | 5.05 | 4.11   | 3.84 | 3.37   | 2.53 |
| 男のアパート | 6.14   | 6.40 | 5.83 | 5.84 | 5.26   | 4.96 | 4.71   | 3.88 |

註：得点範囲は7－1。

.001]。

「キス期待」指標にも同様で、女性の誘いがトップである。続いて、女性のヒント、男性の誘いの順である [5.18 vs 4.55, 4.02,  $F = 187.39$ ,  $p < .001$ ]。

「セックス意思」指標も、同様の傾向を示す [ $M = 4.28$  vs 3.68, 3.21,  $F = 121.97$ ,  $p < .001$ ]。

「レイプ正当性」指標も、数値は低いだが、同様の傾向を示す [ $M = 3.29$  vs 2.56, 2.42,  $F = 48.70$ ,  $p < .001$ ]。

従って、女性が男性をデートに誘った場合、第三者からは、相手の男性にかなりの気があると推測され、もし性的暴行の危害を蒙っても、付け込まれる余地があったのだと、見られかねないということになる。なんらかの示唆を与えた場合も、その方向で解釈されるようだ。

b. 次に、デート行動の効果を検討しよう。

話をするために男性のアパートへ行った場合、仏像を拝観しに寺院に行ったり、映画館へ赴いたりする場合よりも、その女性は、相手の男性を深く「熱愛」としていると、男女の被験者に眺められている [ $M = 5.87$  vs 4.88, 5.03,  $F(2, 180) = 300.88$ ,  $p < .001$ ]。仏像拝観と映画鑑賞間には、この点で、さしたる相違はなさそうである。

同様の傾向は、「キス期待」にも窺える。やはり、男性のアパートは、抜群の度合を示す [ $M = 5.39$  vs 4.06, 4.37,  $F = 255.30$ ,  $p < .001$ ]。

「セックス意思」も、当然ながら、トップは男性のアパートである [ $M = 4.55$  vs 3.18, 3.43,  $F = 219.51$ ,  $p < .001$ ]。

しかも、そのアパートで、当該女性が、レイプの被害にあったとしても、加害者である男性には、少なからぬ「レイプ正当性」があると見なされている [ $M = 3.70$  vs 2.42, 2.56,  $F = 150.36$ ,  $p < .001$ ]。言い換えれば、女性にも隙があり、何程かの責任を引き受けるべきだ、と

判断されているのである。

c. 更に、性差の効果を吟味しよう。

「熱愛」や「キス期待」指標に関しては、女性被験者のほうが、男性の被験者よりも、一層高い評定値を示している [ $M = 5.34$  vs  $5.12$ ,  $F(1, 90) = 158.26$ ,  $p < .001$ ;  $M = 4.67$  vs  $4.46$ ,  $F = 76.11$ ,  $p < .001$ ]。女性は、ロマンティックな夢に憧れるというところであろうか。

「セックス意思」指標になると、逆に、男性被験者のほうが、女性は、その気になっていると推断してしまう傾きがあるようだ [ $M = 3.81$  vs  $3.68$ ,  $F = 22.63$ ,  $p < .001$ ]。

「レイプ正当性」指標では、男性被験者のほうが、男性刺激人物の性的攻撃の正当性を圧倒的に仮定しがちである [ $M = 3.37$  vs  $2.60$ ,  $F = 554.91$ ,  $p < .001$ ]。

**デート代の支払い方の効果** 被験者間1要因、被験者内1要因のときの2要因混合計画法(篠原, 1984)を実施した。具体的には、級間要因は被験者の性別であり、級内要因は代金支払い方である。表5の上段に、デート代の支払い方、即ち、男性が全額支払うか、割りかんにするかによる、各種指標の評定平均値を示す。

表5：デート代の支払い方や女性の友好的行動の捉えられ方の効果

| 指 標：     | 熱 愛    |      | キス期待 |      | セックス意思 |      | レイプ正当性 |      |
|----------|--------|------|------|------|--------|------|--------|------|
|          | 被験者： 男 | 女    | 男    | 女    | 男      | 女    | 男      | 女    |
| デート代支払い  |        |      |      |      |        |      |        |      |
| 男性が全部    | 4.54   | 4.81 | 3.86 | 4.12 | 3.23   | 3.26 | 2.94   | 2.19 |
| 割りかん     | 4.60   | 4.26 | 3.66 | 3.37 | 3.00   | 2.44 | 2.46   | 1.54 |
| パーティー券売り |        |      |      |      |        |      |        |      |
|          | 4.14   | 4.32 | 3.23 | 3.49 | 2.57   | 2.61 | 2.37   | 1.56 |
| ノート貸し    |        |      |      |      |        |      |        |      |
|          | 4.31   | 4.42 | 3.40 | 3.26 | 2.86   | 2.37 | 2.40   | 1.47 |

註：得点範囲は7－1。

「熱愛」指標に関しては、いずれの効果も見出されなかった。「キス期待」指標でも、有意な効果は認め難い。ただ、男性がチケット代金を全額支払った場合に、相手の女性はキスを期待しているとの方向で眺められる傾向が、若干感じられた [ $M = 4.02$  vs  $3.48$ ,  $F(1, 90) = 3.33$ ,  $p < .10$ ]。「セックス意思」指標では、この傾向は、やや顕著になる [ $M = 3.25$  vs  $2.65$ ,  $F = 4.05$ ,  $p < .05$ ]。

さらに、「レイプ正当性」指標でも、同様の傾向が窺える [ $M = 2.48$  vs  $1.89$ ,  $F = 5.37$ ,  $p < .05$ ]。とはいえ、当該指標で最も顕著なのは、性差であり、代金の支払い方いかんに関わらず、男性のほうが、正当化の可能性を一段と高く見積っている [ $M = 2.70$  vs  $1.87$ ,  $F = 33.29$ ,  $p < .001$ ]。

**女性の友好的行動の捉えられ方** 同じく、被験者間1要因、被験者内1要因のときの2要因混合計画法(篠原, 1984)を実施した。具体的には、級間要因は被験者の性別であり、級内要因はパーティー券売りとノート貸しである。表5の下段に、こういった、女性の友好的行動の捉えられ方、に関する評定平均値を示す。

ここで例とした、2つの友好的行動間に評定差があるとは、当初から想定していない。だか

ら、眼目は、性差にある。「熱愛」、「キス期待」、「セックス意思」指標には、さしたる差異は見受けられない。この辺り、仮説がすっきりとした形で支持されているとは言えない。しかし、「レイプ正当性」指標には、明瞭な性差がみられ、男性のほうが、正当化の可能性を遥かに高く見積っている [ $M = 2.37$  vs  $1.52$ ,  $F(1, 90) = 45.06$ ,  $p < .001$ ]。女性側の、純粋に友好的な振舞いが、損失となるのでは、たったものではない。

### 一般的考察

概括から始めよう。研究Ⅰでは、デートの誘いをかける女性や、自己主張の強い、成績の良い女性は、どのような印象を抱かれやすいのか、について検討した。結果は、大体、仮説を支持するものであった。

即ち、男性をデートに誘う女性は、とりわけ、異性に興味があり、性的に積極的である、と見なされていた。この判断は、男性被験者において、より強かった。しかも、こういう女性は、外向的だし、野心的でもある、また、順応性があり、友達づきあいもよく、相手を思えばかるようだし、男女同権主義に立ち、視野も広い、と推論されていた。

自己主張をする、知能や成績の良い女性は、当然のことながら、能力に溢れ、知的好奇心のある人物である、と認められていた。視野が広く、男女同権的だし、野心的で、外向的な人物でもあると解されていた。しかし、可愛げがあるとも、協調的だとも、あまり眺められていなかった。

こうして見て来ると、女性が男性をデートに誘うという行動には、それなりの先入見、ステレオタイプが厳然として存在することは明白である。だから、そうしようとする女性には、周りを気にしない勇氣と、相手の男性を、その気にならせる虞れのあることを、十分に承知していることが、肝要であろう。男性は、この場合は20歳前後の男性ではあったが、女性から誘いの声が掛かると、自分に気があるのではないかと、たやすく思い込んでしまうものであるようだ。また、知能や成績の上回る、自己主張の鋭い女性を、敬遠しがちなことも、かなり確かなようである。

研究Ⅱでは、デートの誘い手や行動の違いが、対人判断に、どのような影響を及ぼすか、女性の側の友好的な行動が、男性によって、どの程度、誤解されるものなのか、について検討した。結果は、ほぼ、仮説を支持していた。

即ち、デートの申し込み様態では、女性が誘う、女性がほのめかす、男性が誘う、の順に、当該女性は相手の男性を、熱愛している、キスを期待している、セックスの意思を持っている、しかも、性的攻撃の犠牲になった場合も、正当化されやすい、と男女被験者に判断されていた。

そうだとすれば、女性が男性をデートに誘ったり、ヒントを与えたりすると、当の男性はもとよりであろうが、観察者からも、気があると見られがちだ、ということになる。しかも、結果的に、性的被害を受けたとしても、割り引いて解釈されてしまいかねない。

デート行動に関しては、たとえ、話をするためであろうと、男性のアパートに行ったりすると、当該女性は相手の男性を、深く熱愛している、キスを期待している、セックスの意思も充

分にある、と判断されていた。しかも、性的攻撃に曝されたとしても、幾分かの落度がある、と突き放されかねない。

こういった点に関する性差であるが、全般に、熱愛やキス期待指標では、女性のほうが、セックスの意思や、レイプの正当性指標では、逆に、男性のほうが、刺激女性を、そういう方向で解釈していた。

デート代を、男性が全額負担しているのを知ると、割りかんの場合よりも、連れの女性は、セックスの意思が少しあるのかも知れない、と推測されていた。性的な危害に遭った場合も、男性の行動がやや正当化される、と見なされる感じもあった。

女性の側の、純粋な友好的行動も、男女により、異なって解釈されるのではないかと想定されるが、今回のデータからは、レイプ正当性に関してのみ、差異が見出され、男性の評定値が、より高かった。女性は、友好的な行動が、男性の誤解を招く危険は相変わらずある、と考えておいたほうが賢明であろう。なかなか、厄介な事ではある。

さて、主題に関して、わが国での文献を探しあぐねたため、アメリカの資料を手掛かりに、引続き考察を加える。

アメリカでは、レイプが多発していると報じられている。デート・レイプも少なくない。Muehlenhard & Linton (1987) が、703名のテキサスの大学生に、デートの最中、女性の意思に逆らって性交渉を持った事例を尋ねたところ、男子被験者の7.1%、女子被験者の14.7%が、イエスと答えている。実際は、これより高率なのかも知れない。それに、レイプに至らないまでも、様々な性的攻撃に、女性が曝されていることも、事実である。

また、レイプのロケーションの最たるものは、自動車(“parking”, カーセックス, 男性被験者M: 48.9%, 女性被験者F: 29.8%)であり、続いて、男性のアパート(M: 18.2%, F: 33.5%), 女性のアパート(M: 10.2%, 18.0%), の順となっている(Muehlenhard & Linton, 1987)。いずれも密室であり、女性が、そこへ足を踏み入れることは、「未必の故意」とも言うべき状況が出来上がりかねない[註3]。また、パーティーで泥酔して、レイプの憂き目を見る(M: 9.1%, F: 10.1%)事例も、結構多いようである。

この間を猛々しく指弾すれば、言うところの、「被害者非難の神話」(blame-the-victim myth) なるものに至る。即ち、女性がレイプに遭えば、その責任は間違いなく彼女にあり、当然の結果を招いたのに過ぎない、と言うものである(Muehlenhard, Friedman & Thomas, 1985)。

この神話の語り手は、例えば、伝統的な性役割態度を保持している人物であろう。われわれの、今回のリサーチでは、明示的な結果を見なかったけれども、やはり、妥当な見解だと思われる。なお、他の、性格や態度変数も、併せて、考慮されなくてはならない。このラインも、検討に値する。

さらに、被害者の特徴、特定の状況等々と併せて、加害者自身の性格や背景の分析(例えば、West, Roy & Nichols, 1978)も、課題とされなくてはならないであろう。

性的攻撃の加害者は、闇夜の裏通りを駆ける、未知の人物であるよりも、顔見知りや友達で

あるほうが、割合として多大を占める。報告中の約 50% にも上っている (Abbey, 1982; Shotland, 1989 参照)。それだけに、重篤な適応上の問題が発生しているようだ。また、レイプ行為として、殴打を伴うのは稀であるとも言われる (Muehlenhard & Linton, 1987)。いずれも、アメリカの報告であるが、わが国にも、若干加減して、類推させていくことは可能であろう。

レイプは、女性の尊厳と人権を圧殺する、許しがたい性暴力犯罪である。時節柄、性的な暴力犯罪から脱出の途を探るというか、防御策や啓蒙学習 (rape-prevention programs) が、一層推進されなくてはならないであろう。また、事後の救済措置も、十全に講じられていることが必要である。

それと並行して、男性の態度や行動を変化させること、「レイプ神話」を打破すること、こういった事柄が、社会的、並びに、個人的レベルで、企図されなければならないであろう。とはいえ、かかる変化・変動は、一朝一夕には期待できないものだ。社会の高度組織化の結果として、ストレスが重層化し、激化している。それに随伴して、レイプ等の性的攻撃が多発している、というフシもなくはないからである。

従って、この際、次のごとく語るのも、あながち、間違いではあるまい。「女性の行為のなかには、男性の誤解を招くものがあり、また、そういった行為を、レイプの正当化と見なす男性もいることを、女性が知っておくことは大切である」 (Muehlenhard, et al., 1985, p. 309)。やはり、女性の側にあって、レイプのリスクを減じる心の施錠が自らの手でなされていること、これが不可欠だと思われる。

最後になるが、Muehlenhard & Hollabaugh (1988) は、テキサスの女子大生 610 名を対象に、セックスへの形だけの抵抗 (token resistance)、を調査した。性交渉に関して、本心はイエスなのにノーと答えたかどうかを質問したところ、少なくとも一度は言ったことがあるの割合は、39.3% に上っている。この点は、現今、性行動の日米文化差を如実に表示するところなのか、否か。諸だとなれば、文化差を十分に斟酌して、上掲の諸文献データを、われわれは、読む必要があろう。だが、否という可能性も捨てきれない。というのは、研究Ⅱで、レイプ正当性指標は別として、熱愛、キス期待、特に、セックス意思指標における、評定値の性差が、想定していた度合よりも、著しく小さかったからである。日本女性の性意識の変容を、ここに、垣間見ることができるのであろうか。検討に値する。

さて、今回の調査研究は、あくまでも、架空の刺激人物に対するものであった。被験者数も多いとは言えない。従って、出てきた評定平均値も、額面通りには、受け取れない傾きもあるであろう。それ故、追加研究を積み重ねるとともに、実態研究も手掛けなければならないところである。

ともあれ、取り上げた主題に関して、わが国では、風俗学っぽい扱いは、ぼちぼち見受けられるとはいえ、その心理—社会的な分析は、大幅に遅れており、本格的な研究は、今後には俟たなければならない。本稿が、その一矢になればと念じている。



## 註

- 1 性役割態度が有意にならなかったことの理由づけは、なかなか難しいところだ。原尺度の異文化への適用の可否、訳語の問題、主題との関連、被験者等々、様々な要因が考量される。この際は、特に、被験者数の僅少さをあげておこう。
- 2 これ以下の分散分析法は、Split-plot factorial design (Kirk, 1982), Within-subjects designs (Keppel, 1982), Multifactor experiments having repeated measures (Winer, 1971), 等々と呼ばれているものである。
- 3 女性被験者4:「密室内に積極的に出向くことは、未必の期待があるものとみなされても仕方ないと見るべきで、その際、女性側の落度はかなり注目に値すると考えられる」。

## 引用文献

- Abbey, A. (1982). Sex differences in attributions for friendly behavior: Do males misperceive females' friendliness? *Journal of Personality and Social Psychology*, 42, 830-838.
- 東 清和・小倉千加子 (1984). 『性役割の心理』大日本図書
- Burt, M. R. (1980). Cultural myths and supports for rape. *Journal of Personality and Social Psychology*, 38, 217-230.
- Check, J. V. P., & Malamuth, N. M. (1983). Sex stereotyping and reactions to depictions of stranger versus acquaintance rape. *Journal of Personality and Social Psychology*, 45, 344-356.
- 石川弘義・斉藤茂男・我妻 洋 (1984). 『日本人の性』文芸春秋
- Kelley, K., & Rolker-Dolinsky, B. (1987). The psychosexology of female initiation and dominance. In Perlman, D., & Duck, S. (Eds.), *Intimate relationships: Development, dynamics, and deterioration*. Newbury Park: Cal.: Sage, pp. 63-87.
- Keppel, G. (1982). *Design and analysis: A researcher's handbook* (2nd ed). Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- Kirk, R. E. (1982). *Experimental design: Procedures for the behavioral scientists* (2nd ed). Monterey, Cal.: Brooks/Cole.
- Muehlenhard, C. L. (1988). Misinterpreted dating behaviors and the risk of date rape. *Journal of Social and Clinical Psychology*, 6, 20-37.
- Muehlenhard, C. L., Friedman, D. E., & Thomas, C. M. (1985). Is date rape justifiable? The effects of dating activity, who paid, and men's attitudes toward women. *Psychology of Women Quarterly*, 9, 297-310.
- Muehlenhard, C. L., & Hollabaugh, L. C. (1988). Do women sometimes say no when they mean yes? The prevalence and correlates of women's token resistance to sex. *Journal of Personality and Social Psychology*, 54, 872-879.
- Muehlenhard, C. L., & Linton, M. A. (1987). Date rape and sexual aggression in dating situations: Incidence and risk factors. *Journal of Counseling Psychology*, 34, 186-196.
- Muehlenhard, C. L., & McFall, R. M. (1981). Dating initiation from a woman's perspective. *Behavior Therapy*, 12, 682-691.
- Muehlenhard, C. L., & Scardino, T. J. (1985). What will he think? Men's impressions of woman who initiate dates and achieve academically. *Journal of Counseling Psychology*, 4, 560-569.
- 日本マイコン販売 (1986). 『多変量解析』同社
- 落合恵子 (1985). 『ザ・レイプ』講談社 (オリジナル: 小説現代 1982)
- Osgood, C. E., Suci, G. J., & Tannenbaum, P. H. (1957). *The measurement of meaning*. Ill.: University of Illinois Press.
- 篠原弘章 (1984). 『行動科学のBASIC(2): 実験計画法』ナカニシヤ出版

- 篠原弘章 (1986). 『行動科学の BASIC(3) : 統実験計画法』 ナカニシヤ出版
- Shotland, R. L. (1989). A model of the causes of date rape in developing and close relationships. In Hendrick, C. (Ed.), *Close relationships*. Newbury Park, Cal.: Sage, pp. 247-270.
- Spence, J. T., & Helmreich, R. (1978). *Masculinity and femininity: Their psychological dimensions, correlates, and antecedents*. Austin: University of Texas Press.
- 田中敏明編 (1988). 『性と愛の心理』 福村出版
- West, D. J., Roy, C., & Nichols, F. L. (1978). *Understanding sexual attacks*. London: Heinemann Educational Books. (ウエスト・ロイ・ニコルス 作田明訳 (1985). 『性的攻撃—強姦の精神病理—』 金剛出版)
- Winer, B. J. (1971). *Statistical principles in experimental design* (2nd ed). New York: McGraw-Hill.

付録

1：シナリオ（女性からのデート申し込み効果）

導入部分：シナリオ abcd 共に、同じ内容。

後期課程の終わりの頃。  
大勢の学生が、心理学の授業の始まりを待っている。  
或る男子大学生も、教室の椅子に腰掛けている。  
カジュアルなスタイル、センスもまあまあの感じ。  
授業のテキストをばらばらめくっている。  
一人の女子学生が近づき、彼の隣の席につく。  
バッグから、テキストとノートを取り出す。  
容姿は、人並みと言ったところ。  
二人は、これから始まる心理学の授業について話し出す。

会話部分 1：シナリオ ac は、同じ内容。

男「もうすぐ試験だね。どう？」  
女「あたし、高校の頃から心理学に興味を持っていたの。だから、わりあいスムーズに行けてるって気がするわ。テキストの、今日のところ、ざっと目を通してきたけど、面白かったわ。」  
男「そう。ところで、前期テストの結果、どうだった？」  
女「95点だったわ。山本君は？」  
男「ぼくは、80点だったよ。能力からして、こんなところかな。」  
女「ふうん。」  
男「鈴木さんは、できそうだねえ。それに、自分の意見を持っているし…」

会話部分 2：シナリオ bd は、同じ内容。

男「もうすぐ試験だね。どう？」  
女「あたし、高校の頃、心理学に興味を持っていたの。でも、何か感じが違うって気がするわ。テキストの、今日のところ、ちょっと見てきたけど、よくわからなかったわ。」  
男「そう。ところで、前期テストの結果、どうだった？」  
女「それが、65点しか取れなかったの。山本君は？」  
男「ぼくは、80点だったよ。ヤマが当たったんだ。」  
女「ふうん。」  
男「鈴木さんも、こんどは、うまくやれよ。」

会話部分 3：シナリオ ab は以下の文を含み、cd は省略。

女「それはそうと、今、梅シネで、いい映画をしているんですって。何も予定がなくて、もしよかったら、あとで、一緒に観に行かない？」

## 2：印象判断質問紙

シナリオの女子学生に対して、あなたは、どのような印象を受けましたか。適当な数字に○印をつけて、示して下さい。(数字の7と1が両極端で、その特徴をあらわし、4が中間です。)

- |           |               |            |
|-----------|---------------|------------|
| 外向的な      | 7 6 5 4 3 2 1 | 内向的な       |
| 能力のある     | 7 6 5 4 3 2 1 | 能力のない      |
| 信頼できる     | 7 6 5 4 3 2 1 | 信頼できない     |
| 異性に興味のある  | 7 6 5 4 3 2 1 | 異性に興味のない   |
| 思いやりのある   | 7 6 5 4 3 2 1 | 思いやりのない    |
| 機転のきく     | 7 6 5 4 3 2 1 | 機転のきかない    |
| 野心的な      | 7 6 5 4 3 2 1 | 野心的でない     |
| 性的に積極的な   | 7 6 5 4 3 2 1 | 性的に消極的な    |
| 情緒の安定した   | 7 6 5 4 3 2 1 | 情緒の安定していない |
| 可愛げのある    | 7 6 5 4 3 2 1 | 可愛げのない     |
| 男女同権的な    | 7 6 5 4 3 2 1 | 男女同権的でない   |
| 視野の広い     | 7 6 5 4 3 2 1 | 視野の狭い      |
| 友達づきあいのよい | 7 6 5 4 3 2 1 | 友達づきあいのわるい |
| 敬虔な       | 7 6 5 4 3 2 1 | 敬虔でない      |
| 順応性のある    | 7 6 5 4 3 2 1 | 順応性のない     |
| 知的好奇心のある  | 7 6 5 4 3 2 1 | 知的好奇心のない   |
| 責任感のある    | 7 6 5 4 3 2 1 | 責任感のない     |
| 人をいらいらさせる | 7 6 5 4 3 2 1 | 人をいらいらさせない |
| 協調的な      | 7 6 5 4 3 2 1 | 協調的でない     |
| 交際してみたい   | 7 6 5 4 3 2 1 | 交際してみたくない  |

### 3：性役割態度

下に示した文章は、社会における女性の役割に対する態度をあらわしています。別にどれが正しく、どれが間違っているというのではなく、いわば単なる見解です。

あなたは、「A」非常に賛成・「B」やや賛成・「C」やや反対・「D」非常に反対のうち、自分の気持ちに当てはまると思うものに、○印をつけて下さい。

- |  | 非賛<br>常に成 | や賛<br>や成 | や反<br>や対 | 非反<br>常に対 |
|--|-----------|----------|----------|-----------|
| 1. 女性が下品な言葉を使った場合、男性がそれを使うよりも聞き苦しい。                                    | A         | B        | C        | D         |
| 2. 女性が家庭外で活動している現代の経済状態のもとでは、男性も、皿洗いや洗濯のような家事を分担すべきである。                | A         | B        | C        | D         |
| 3. 結婚式で、「あなたは、夫に従いますか…」という一節があるのは、女性にとって侮辱的なことである。                     | A         | B        | C        | D         |
| 4. 結婚の申し込みは、女性からも自由にしてよいはずだ。   | A         | B        | C        | D         |
| 5. 女性は、女性としての権利を主張するより、よい妻、よい母になることを重んじるべきである。                         | A         | B        | C        | D         |
| 6. 女性は、事業においても、また全ての職業においても、男性と同様に、その実力にあった地位を得るべきである。                 | A         | B        | C        | D         |
| 7. 女性は、男性が行く歓楽街などへ行こうとか、同じように自由きままな行動をとってよいとか、思ってはならない。                | A         | B        | C        | D         |
| 8. 女性がブルドーザーを運転したり、男性が編物をするのは、ばかげたことである。                               | A         | B        | C        | D         |
| 9. 社会における知的な主導権は、大部分、男性の手にあるべきである。                                     | A         | B        | C        | D         |
| 10. 専門職への門戸は、女性にも、平等に開かれるべきである。  | A         | B        | C        | D         |
| 11. 男性と同じぐらい収入のある女性は、デートのとき、等しく出費を負うべきである。                             | A         | B        | C        | D         |
| 12. 家族の中で、息子は娘より、大学に行くことを奨励されるべきである。                                   | A         | B        | C        | D         |
| 13. 一般的に、父親は、子供の養育に関して、母親より大きな権威を持つべきである。                              | A         | B        | C        | D         |
| 14. 男性によって、これまでつくられてきた「女らしさ」の考えを受け入れるよりも、女性にとっては、経済的、社会的自由が、はるかに重要である。 | A         | B        | C        | D         |
| 15. 雇用・昇進の際、女性より男性が選ばなければならない仕事は、多々ある。                                 | A         | B        | C        | D         |

#### 4：シナリオ（デート行動と性的被害のリスク）

1. [祐樹と桃子は、心理学の授業を一緒に取っていて、時おり話を交わす間柄です。]

[授業が終わってから、祐樹は、週末のデートに桃子を誘い、二人は、仏像拝観に出かけました。]

◆この情報から、あなたは、どのような判断を抱きましたか。適当な数字に○印をつけて下さい。

- ①桃子は、祐樹に、どのくらい熱をあげていますか。

全然、熱を上げていない 1 2 3 4 5 6 7 非常に、熱を上げている

- ②桃子は、祐樹と、どのくらいキスをしたいですか。

全然、キスをしたくない 1 2 3 4 5 6 7 非常に、キスをしたい

- ③桃子は、祐樹と、どのくらい性交したいですか。

全然、性交したくない 1 2 3 4 5 6 7 非常に、性交したい

- ④祐樹は、桃子の意思に反して性交しました。彼の行為は、どのくらい正当化されますか。

全然、正当化されない 1 2 3 4 5 6 7 非常に、正当化される

2. [授業が終わってから、桃子が、週末の予定がないと彼に語ったので、祐樹は、彼女をデートに誘い、二人は、映画に出かけました。]

3. [授業が終わってから、桃子は、週末のデートに祐樹を誘い、二人は、話をするために、彼のアパートに出かけました。]

4. [祐樹の所属するクラブ主催のパーティー券を売ってあげた桃子は、代金を持って、彼のクラブ部室に出かけました。]

5. [授業が終わってから、祐樹は、週末のデートに桃子を誘い、二人は、映画に出かけました。]

6. [授業が終わってから、桃子は、週末の予定がないと彼に語ったので、祐樹は、彼女をデートに誘い、二人は、仏像拝観に出かけました。]

7. [祐樹と桃子は、ロックコンサートに一緒に出かけました。チケット代は、祐樹が二人分支払いました。]

8. [授業が終わってから、桃子は、週末のデートに祐樹を誘い、二人は、仏像拝観に出かけました。]

9. [授業が終わってから、祐樹は、週末のデートに桃子を誘い、二人は、話をするために、彼のアパートに出かけました。]

10. [祐樹と桃子は、ロックコンサートに一緒に出かけました。チケット代は、割りかんにしました。]

11. [試験が近づいたので、桃子は、ノートを貸してあげるために、祐樹のクラブ部室に出かけました。]

12. [授業が終わってから、桃子が、週末の予定がないと彼に語ったので、祐樹は、彼女をデートに誘いました。二人は、話をするために、彼のアパートに出かけました。]

13. [授業が終わってから、桃子は、週末のデートに祐樹を誘い、二人は、映画に出かけました。]

（原稿受理 1989年3月17日）